

第2回新宿区次世代育成協議会概要

平成18年3月29日(水)午後2時
区役所本庁舎5階 区議会大会議室

1 開会

区長あいさつ

平成18年度事業について報告

- 1 西落合三世代交流モデル事業について
- 2 児童手当拡充について
- 3 若者の自立応援プランについて

2 議題

(1)協議事項

ア 新宿区次世代育成支援計画の主な事業の進捗状況について

イ 平成18年度新規・拡充事業について

ウ 部会からの協議内容報告

第一部会(子ども育成)

第二部会(子育て支援)

第三部会(地域・環境)

事務局

平成17年度の進捗状況と18年度新規・拡充事業について説明

(2)発言

委員 学童クラブと外国籍の方の子育て支援について、

時間延長をおこなうために民間委託をおこなっているが、事業者の選考において適格性について考えてもらいたい。安定した運営の確保により、保護者も安心して学童クラブに行かせられる。

もうひとつ、私はNPOをおこなっている。新潟のログハウスに親子を連れて行っている。先日、外国籍の方を連れて行った。そこで、話をしたら外国籍の方も子育ての悩みは共通であった。その後、新潟に行かなかった人も含めて、ゆったりーに集まり話す中で、今度薬王寺のサンバにもフィリピンの人も参加することになった。私も今までは外国人を遠巻きに見ていたが、話をすることで、外国人に対しても子育て支援をどうしていくか考えるべきであると思うようになった。

事務局

学童クラブについて、安定的な運営ができるようにしていきたい。外国籍の人についても、同じように支援していきたい。また、机上にお配りしている「子育て情報ガイド」の外国語版を作ったので配布していきたい。

会長

学童クラブについては、事務局もいったように、安定的な運営について十分留意していくので見守っていただきたい。また、外国籍の方の子育て支援についても、同じように行っていくので、皆さんの方からも問題提起などいただけたらと思う。

委員 外国籍の人に対するサポート体制について

計画の中で事業として書かれているが、参加する人は留学生がほとんどである。親子の方も参加しているが、満足な状況ではない。大久保小学校で外国人親子のため日本語適応教室おこなっていたが、半分以上抜けて行った。韓国・中国の方は、協会などのサポートがあり相談もできるが、それ以外の外国籍の人に対してはサポート体制がない。文化国際財団は仕事をしているが、文化国際交流課はボランティアをしていますが、何をしているか見えない。

会長

歌舞伎町のハイジアの中に新宿区は多文化共生プラザを開設し日本語教室や必要であれば生活保護につなげていくなどしている。文化国際課の現場が文化国際交流財団である。手間とお金をかけて取組んでいる。

委員 学童クラブの時間延長について

学童クラブについて、女性が仕事をやめていくのは、一番目には子どもが生まれたときである。それには対応するサービスとしては保育園がある。次にやめるのは、子どもが小学校に入るときである。学童クラブは時間延長がなく、仕事をやめざるをえない。また3年生までで4年生はない。せめて4年生までにはならないのか。それから男女共同参画からも考えていく必要がある。

事務局

現在、直営の学童クラブは午後6時までである。業務委託をおこなっているところは、午後7時まで延長をおこなっている。また、午後10時まで延長をおこなう民間の学童クラブも2箇所ある。ここ2年間100名ずつ学童クラブの需要が増えている。学年延長を実施すると対象が200名近く増えるので、現状では一気には対応できない。

会長

学童クラブ需要の増についても考えていく必要があると思う。また、男女共同参画の視点も、とても重要であると思う。そして、私も子どもを共稼ぎで育ててきたが、昔と今では、背景も違うと思うが、子どもの力を信じてみんなで見守りながら、子どもも少しずつリスクを採りながら自立をしていくことが重要であると思う。また、もっと学校内のトータルな遊び場などを考えていく必要もある。自立を促し、リスクも一寸ありながら、大きく成長させていくことが大切だ。

委員 子どもの自立と親の思いについて

父母の集まりの中でも問題となった。

実際には、3年生ぐらいになると家に帰ってからかばんを置いて、一般で児童館に来るようにしたい、専業主婦のいる家庭の子と遊びたいと、自立している人などところで遊びたがる。友達の輪が広がってくるが、親は心配だから不安だから預けていたい。夜も、毎日、塾やお稽古をいれるという考え方もある。子どもの育ちと親の気持ちとを、どうバランスをとっていくか、大事なテーマのひとつである。

委員 公平感のあるサービスを

小学生になるとフルではなく、パートで働いている人が多い。フルの方に比べるとサービスが受けづらい。学童クラブも週に何日以上働いて、何時間以上働かなくてはならない。パートの母親がいることも考慮にしてもらう必要がある。児童手当も乳幼児の一部の方である。もっと公平感のあるサービスを考えて欲しい。

会長

おっしゃるとおりである。しかし、サービスを大量に提供はできないので、所得制限もある。幼保一元で親が働く、働かないという形ではなく、同じ子どもとして支援を行っていく。進捗状況等々については、概ね計画通り進捗していることを確認し、ご意見については、これからも十分考慮させていただきたい。

これから、部会の協議の内容をふまえてご報告をいただき、何ができるか協議をしていきたいと思う。平成19年度には、次世代育成支援計画の見直しが予定されている。本日、協議が終わらなかった事項については、18年度も引き続きご協議いただき、19年度の計画見直しに反映していきたい。

そういった中で、今回は中間の協議内容の報告となる。

(3)学識経験者から部会報告

第一部会長・坂内先生)資料に基づき報告

子どもの居場所をどう確保していくかという点に焦点を当てて議論した。

新宿区内にいろんなプログラムがあるが、使いこなされていない。縦割り状態のままではないか。関連団体が連携しながら、一緒に考えていくことが必要。

学校単位だけでなく、私立に通っている子どもも含めて、地域社会・日常社会の中での居場所作りを考え直していく必要があるのではないかということを確認した。私立の幼稚園にも補助や支援などを充実させていくことを盛り込んでいく必要がある。

第二部会長・増田先生)資料に基づき報告

子育てをしている家庭をどのように支援していくのか。子育てに不安感を持っている親などをどのように支援していくかについて話し合った。

子どもに関することを横断的に取り組める子どもの専門の組織、子育てについてどのような対応がなされているのか理解できるような体制が必要である。また、区の

担当者が、異動等で短い担当となるため、事業の継続性・発展性に課題がある。
また、地域を越えて学校に通っている子どもへの対応もこれからの課題である。

昨年、子育てサポートネットワークが発足したが、危機の一手手前の情報の共有化が求められる。また、必要な方に必要な情報を伝えるため、コンビニや商店街など、身近な町の生活の中で、PRできる工夫も大事ではないか。

具体的には、出産前からのサポート、発達障害等がある子どもはもちろん、保護者への支援が大事であろう。在宅で子育てしている方の社会参加への支援や外国人への子育て支援や国籍のない子どもへの支援も今後の課題である。

働き方の見直しとして、父親の子育てへの参加が可能となる働き方をどう確保するか。次世代育成支援計画について、企業に向けても働きかけを具体的にしていくことも大切。零細・中小企業への働きかけも重要な視点として多くの意見が出された。

第三部会長・福富先生)資料に基づき報告

大変、積極的に議論した。特に第三部会は、実際に地域での育成会活動に関わっている方が多い部会である。地域が、子どもの育成に対してどう関れるのだろうか？というところが大きなポイントになった。

ひとつは、今日的な状況を踏まえ、安心して子ども達が過ごせるような場づくりを地域としてどうしたらよいのだろうかということであった。地域の子子ども達をどう見守っていけるか。子ども達に声をかけることなど具体的な話があったが、どのようにして展開できるのかについては、もう少し議論を煮詰めて、背景にあるものを探って行こうということになった。

もうひとつ、子育ては基本的には親であるが、「地域は子育てに対して何が支援できるのか」これも大きなテーマとしての議論となった。母親のみならず、父親がどう子育てに関わっていくのか。違いは本当にあるのだろうかなど話し合いがなされた。

親に対しての働きかけについても、育成会活動等で、企画をしてみても参加してもらえない、参加するのは限られた子どもになってしまう。魅力ある関わりを展開することがどうしたらいいのだろうか。関る側の問題かもしれない。

新宿区は地域が子どもたちに密接に係わっている地域が多く見られる、その良さをもっと強調していくにはどうしたらいいのだろうか。大都市のなかで子ども達が安心して生活でき、親達をどう支援をできるのか、具体的な対応について、もう少し見つけて話してみたい。

(4)意見交換

副会長・第三部会委員長

次世代育成ということで、小さな子どもから青少年までをくくったメリットは何か。行政のセクションがはっきりしない。三世代交流は画期的な世代間の交流事業だと思

うが、子育てされる側の赤ちゃん、幼児、小学生、中学生、高校生という子どもたちの異年齢交流も必要である。

委員

NPO で子どもを週 1 日ずつ 4 家庭が持ちまわって、預かっている。子どもを応援していく連携が必要と思い進めているが、昼間どういう状態か、学校にどういう洋服できているか、昨日のままの服でないかとか。親が子どもをどのようにしているかの情報が欲しい。

委員

年代や地域でくくっておこなってきた。自分たちの活動は、自分たちの力が弱いので、地域の育成会、町会等の団体に協力を求めてキッズコンサートをおこなった。コンサートは子どもが対象で、乳幼児から中学生でもよい。コンサートをおこなうにあって、ボランティアで運営している。ボランティアは小学生から大学生まで求めた。小学生には小学生の、中学生には中学生の、高校生には高校生の、大学生には大学生の、できる仕事、役割をおこなってもらっている。ボランティアをおこなうことにより人と協力してやることの楽しさを解ってもらっている。

委員

育成会の活動でキャンプ活動がある。子どもたちは、当日ただ行くだけではなく、事前から関わるようにしている。帰りのバスで何が楽しかったと聴くと、大人が苦労して考えたメニューよりも子どもたちが考えた簡単なメニューの方が楽しかったと、答えてくる。子どもたちが楽しむためには、自分たちが考えることが必要である。帰ってからも写真の整理をしたりして楽しんでいる。今の子どもたちは、自分たちで考えることが足りないのではないか。

子どもたちが参加をあきらめる理由として、「親が面倒だから」がある。子どもがやりたいこと参加したいことを排除している。ただし、いろいろ活動していく中で、親も関わると考えが変わるのかなと思っている。子どもが小さい頃、可愛い盛りに参加することによって、親にも行事に参加する楽しさが芽生えてくるのかなと思っている。

会長

親の意識改革につながる提言と受けとめ検討していく。

委員

17 年度の新宿区区報では、区立幼稚園の 2 年保育は、12 名以下の学級編成をしないと掲載されていたが、近所の区立幼稚園は特例として 10 名でやることになった。私立と区立との共存共栄をうたっているが、どうなったのか。

委員（教育長）

今回は例外である。

委員

中野養護に通う子どもたちは、地域とのかかわりがまったくない。障害児も広い目

で受け止めて欲しい。

委員

話を聞いていて考えが変わってきた。行政はサービスをしているが、受け取る側が理解し感謝しているのか。活動の裾野を拡げていく必要がある。子どもにも自覚を促し、地域ボランティアに参加するような機会をもうけていただきたい。子どもたちが次に活動を担っていけるようになればと思う。

委員

ファミリーサポートを利用するのはよいが、親の自助努力も必要である。その上で公的機関のサービスを使うという気持ちが大切ではないか。

父親の育児の関わり方については、事業者の意識を変えていく必要もある。

委員

昨年、ゆったりーので、中高生と赤ちゃんとのふれあいのをおこなったが、参加者が集まらなかった。特に高校生は学校に頼みにいったが、それより勉強と言われたりした。高校は都の教育委員会なのだろうが、なんとかならないのか。

4 学識経験者のコメント

副会長・第三部会長・福富先生

自分たちが良かれと思ったことは、果たして、誰にとって良かれなのか。原点に立ち返って考えてみる必要があるではないか。皆さんと一緒に来年じっくりと考えていきたい。

第二部会長・増田先生

子育ては親を中核とすることは押さえておく。しかし、社会が支えていくことが大切。すべての子どもに応えるようにやっていったらよい。パートの人にも光を当てる取り組みを新宿でして欲しい。育てられるものから育てるものへ、世代間の伝承が必要である。

第一部会長・坂内先生

様々な方が、子どもの居場所づくりに努力していることが解った。子どもや地域の皆様にも知ってもらえるとよい。社会でやっていく意識をもってもらうことが大切である。

会長

本日はありがとうございました。また来年度もよろしく願いいたします。